

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 高山陣屋跡保存修理事業費（公共）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

環境生活部県民文化局 高山陣屋管理事務所 管理調整係 電話番号：0577-32-0643

E-mail：c21806@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 161,185千円（前年度予算額：104,870千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	104,870	52,435	0	0	0	0	0	47,100	5,335
要求額	161,185	80,592	0	0	0	0	0	72,500	8,093
決定額	112,830	56,415	0	0	0	0	0	50,700	5,715

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

高山陣屋跡保存修理事業（文化庁所管 史跡等保存整備事業）を実施し、国史跡高山陣屋跡を保存します。

（2）事業内容

【保存整備事業】

- ・屋根葺替工事（郡代役宅一部）
- ・屋根葺替工事監理（郡代役宅一部）
- ・屋根葺替工事設計（書物蔵）
- ・屋根葺替用くれ板購入（書物蔵（熨斗樽））
- ・くれへぎ実演用原木購入

【耐震対策事業】

- ・耐震補強工事
- ・耐震補強工事監理

（3）県負担・補助率の考え方

高山陣屋跡保存修理事業（文化庁所管 史跡等保存整備事業）
負担区分及びその財源

国庫支出金（文化庁） 2分の1
岐阜県（財源 使用料、一般財源） 2分の1

（４）類似事業の有無
無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	212	事務旅費
需用費	5	消耗品
委託料	10,864	屋根葺替工事監理（郡代役宅一部）6,979 屋根葺替工事設計（書物蔵）1,458 耐震補強工事監理 2,427
工事請負費	93,623	屋根葺替工事（郡代役宅一部）69,354 耐震補強工事 24,269
原材料費	56,439	屋根葺替用くれ板購入（書物蔵）56,054 樽へぎ実演用原木購入 385
その他	42	報償費
合計	161,185	

決定額の考え方

事業内容を精査し、所要額を計上します

4 参考事項

（１）各種計画での位置づけ

高山陣屋跡保存修理計画

（２）後年度の財政負担

計画的に保存修理を実施していくため、財政負担必要

（３）事業主体及びその妥当性

岐阜県が事業主体となり、高山陣屋跡保存修理を適切に実施し、施設を広く公開する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 全国唯一、徳川幕府の代官所跡が現存する国史跡高山陣屋跡の保存修理を適切に行い、広く公開します。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
	(R)	(R)	(R)	(R)	(R)	%

○指標を設定することができない場合の理由

維持管理を行いながら適時に修理していく必要があり、数値化は困難

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 屋根葺替工事（御役所南）
 屋根葺替工事監理（御役所南）
 耐震補強設計
 屋根葺替工事用くれ板購入（郡代役宅一部）
 樽へぎ実演用原木購入

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 文化財保存の観点から適切に事業を行い、国史跡高山陣屋跡を良好な状態で維持保存することができた。
 345千人（平成31年度）の入場者に施設を公開することができた。入場者からは、またぜひ訪れたい、貴重な施設を今後も維持保存して公開してほしい等のご意見があった。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	施設を良好な状態で維持保存していくために、必要性が高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	施設を良好な状態で維持保存し、345千人（平成31年度）の入場者に公開することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	専門家会議で助言や指導を受けながら保存修理を行い、効率的に事業を行っている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>施設を適切に維持保存し広く公開していくために、専門家会議や文化庁の指導を受けながら事業を進めたい。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>年間345千人（平成31年度）の入場者がある国史跡高山陣屋跡を、県民の誇りとして維持保存し広く公開するために、適切に事業を行っていく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 組み合わせる理由や期待する効果 など	
--	--